

石正美術館 ミュージアムニュース

アフロディア

【期間】1998（平成10）年（部分）／【石正記念展示室 企画展「石正の視点V.O.I. 1 朱と白」より】



《牡丹》1989（平成元）年



《牡丹》1999（平成11）年

情熱や生命力など力強さを感じる色、朱。
 静寂や清らかさ、神聖さなどのイメージを持つ白。
 視覚的にも心象的にも対照的な朱と白は、古くから慶事や神事といっ
 た人々の暮らしの様々な場面で使われてきた色の組み合わせです。いづ
 れも発色の美しいものほど顔料として貴重で、ときには特別な意味を含
 ませながら絵画の中でも広く使われてきました。
 本展では、このふたつの色に着目して日本画家・石本正（一九二〇～
 二〇一五／浜田市三隅町出身）の作品をご紹介します。

◆ 作品紹介 ◆

朱と白の牡丹

右の朱色の牡丹は、まるで花が蜜
 蜂を誘うかのように、「生」をかけて
 生きる女性の姿を重ねた作品。背景
 までも真っ赤に仕上げられた様子に、
 圧倒されるような情念を感じます。
 左の白い牡丹は、昔観た映画の一
 場面から、少女たちが楽しそうにダ
 ンスを踊っているイメージを重ねて
 描いたもの。花と葉でS字の流れを
 作り、音楽を奏でるような清らかで
 楽しい雰囲気演出しています。

いづれも、牡丹を主題に女性の姿
 を描き出そうとした花の代表作です。
 並べてみることで、色がもつ印象や
 性格を明確に使い分けながら、イメー
 ジの世界を創り上げていることが見
 えてきます。



《ふらみんご》1960（昭和35）年

黒いフラミンゴ!?
強調して魅せる朱

黒い十羽のフラミンゴ。くねくね
 と絡み合うような長い首がリズムカ
 ルに描かれ、まるで絵の中で動い
 ているようにも見えます。

しかし本来フラミンゴの羽色はピ
 ンクや朱がほとんどで、黒は実在し
 ません。

フラミンゴを見て、「顔がピンクで
 いつも酔ったようにフラフラとして
 いながら、どこか神秘的な感じのす
 る鳥」と思ったという石本正。黒や
 褐色をつかって全体の色をまとめ、
 目の周りに鮮やかな朱を塗ることで、
 「酔ったように」感じたフラミンゴの

あか
朱
 と
白
 しろ

コミカルな雰囲気と
 動きを強調していま
 す。

このほか、朱と白
 が印象的に使われた
 舞妓や裸婦、花など
 石本正の代表作約三
 十点を一堂に展示し
 ています。女性の衣
 服やメイク、花の色
 や背景など多様に取
 り入れられた朱と
 白。色づかいからみ
 えてくる画家の想
 いや創意工夫をお楽
 しみ下さい。

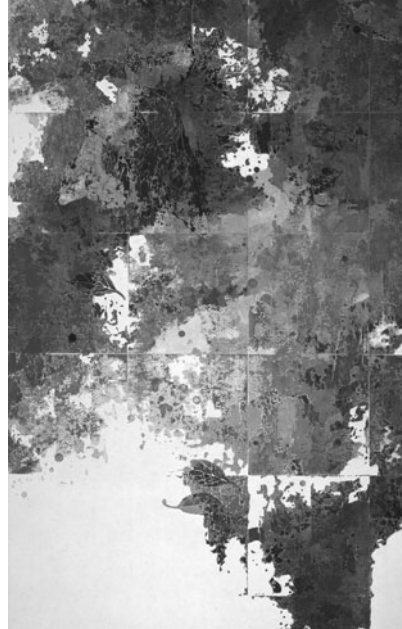
石本正記念展示室

浜田市立石正美術館 開館25周年
企画展 | 石本正の視点 vol.1

2026

3.20 [金・祝] → 5.24 [日]

浜田市立石正美術館は、今年開館二十五周年を迎えます。島根県浜田市出身の日本画家・石本正（一九二〇～二〇一五）の画業を顕彰する美術館として二〇〇一（平成十三）年に開館しました。その後二〇一〇（平成二十二）年には、石本が「心ある本物の作品」と高く評価した作品を収蔵・展示するスペースとして現在の企画展示室を含むエリアが増設され、以来、地域ゆかりの文化



の紹介なども含めた様々な展示会を行っています。

「現代の日本画展」は、石本正や当館に関わりの深い画家たちを、毎年メンバーを入れ替えて紹介するグループ展として昨年発足しました。第二回目となる今回は、石本も所属し作品発表を続けた創画会で、同様に活動してこられた池庄司淳・池田知嘉子・多留裕二・吉川弘の四名に依頼し、当館の収蔵作品だけでなく近作を含めた二十二点を一堂に展示します。

今を生きる画家たちが対象と自己に向き合い挑戦し続ける姿を、作品を通してご覧いただけますと幸いです。

1. 池庄司淳《断片風景-2》2004（当館所蔵）
2. 池田知嘉子《遠ざかる風景》2024
3. 多留裕二《彩映》2024
4. 吉川弘《清閑溪谷》2022

同時開催／企画展示室

現代の日本画展 PART 2

A CONTEMPORARY JAPANESE PAINTING EXHIBITION

池庄司淳・池田知嘉子・多留裕二・吉川弘

【主催】公益財団法人浜田市教育文化振興事業団

関連イベント

第66回石本正絵画教室

人物デッサン会[裸婦&コスチューム(バレエ衣装)]

4.4 ± 5日

参加費 7,500円

1日目：午前／ギャラリートーク・午後／人物デッサン
2日目：終日人物デッサン

要申込み【定員】30名（要予約）

ご予約受付中

講師：西久松 吉雄（当館館長・創画会副理事長）
会場：石正美術館創作室

作家によるギャラリートーク

開催中の「現代の日本画展 PART2」の出品作家にお越しいただき、それぞれの作品に込めた思いなどをお話しいたできます。

4.4 ± 10:00 ~ 11:00

申込不要、聴講無料

（ただし当日観覧券またはミュージアムパスポートが必要です）

会場：石正美術館企画展示室

イベントの詳細はお問い合わせください。

続・ミュージアムIPM ①

VS ダンゴムシ



みなさんは「IPM」という言葉
を耳にしたことがありますか。
実はこれと同じ質問を2014年
4月号の「学芸員の部屋」でし
たことがありました。

あれから十二年。ご存知の方も
増えてきたと思いますが、まだま
だ耳なじみのないIPMについて
当館の現況をふまえて紹介しまし

2014年4月号は、こちらの
QRコードをスマートフォンで
読み取っていただくとご覧い
ただけます。



IPM (Integrated Pest Management)
は「総合的有害生物管理」(*)のこ
とです。…と書くと、何だかこむ
ずかしく感じますね。簡単に言う
と「大切なものを虫やカビの被害
から様々な手段で守っていきこ
う」という考え方のことです。こ
こでいう「大切なもの」はIPMが
取り入れられる分野によって異
なり、農業なら農作物、図書館
なら本、美術館や博物館なら文
化財という具合です。当館では「日

の点検・清掃を重視し、薬剤使用
は必要最少限。周辺の生物環境に
配慮しつつ有害生物の活動を許容
範囲内に抑えること」を目標にし
ています。

十二年前はまだ手探り状態だっ
た当館のIPMもトライ&エラー
を重ね、状況に応じて適切な(と
思われる)手段を講じられる所ま
で来ました。その一例をお話し
します。

例えば虫。石正美術館は木々に
囲まれた自然豊かな立地にあり、
当然そこに住まう虫たちも時に招
かれざる客として自動扉や職員通
用口から来館します。飛んでくる
もの歩いてくるもの様々ですが、
全員お引き取りいただいています。
館内で虫が見つかった場合、①発見
者が学芸員に報告②虫アミ等で捕
獲③(建物から離れた)自然に戻す、
④発見日と場所・虫の種類・進行
方向を記録、というのがお決まり
の手順です。この記録の蓄積があ
ることで季節ごとの出現傾向が読
めるようになってきました。

二十四節気の啓蟄(けいちゅう)三月五日〜九日
頃、土中で冬ごもりしていた虫
たちが目覚める季節を指しますが、
ほぼ同時期を境に職員通用口から
のダンゴムシの侵入に悩まされて
きました。ダンゴムシ自体は美術
品に害をなす存在ではありません。
しかし彼らが美術館の心臓部、収
蔵庫付近まで侵入したとします。
そこで息絶えれば、ダンゴムシを
エサとする他の有害生物を誘い込
むこととなります。それを防ぐた
め職員は全ての虫に目を光らせて
いるのです。

不思議なことに日中の侵入は無
く、一晩明けた出勤時に「うわあ…」
となるケースが多々ありました。
調べてみるとダンゴムシは夜行性。
特に建物の周囲を草刈り機で刈つ
た日の翌朝に散見されることから、
すみかを追われ、夜風をしのぐた
めにドア下のすきまから入ってき
たというのが見立っています。

最初に試したのは市販の防虫ス
プレー。地面にまけば侵入を抑制
する効果があると聞き、しばらく
試しましたが目ぼしい効果はあり
ませんでした。次に試したのはド
ア下に貼るすきまテープで、最初
は良かったのですが頻繁にドアを

開閉する内に外れてしまいました。
そしてたどり着いたのが防虫ブ
ラシです(写真)。実は元々ドアには
別の防虫ブラシが取り付けられて
いました。ですが、それをかいくぐ
って侵入していたので違う選択肢を
試していたところ、専門業者から
毛足の長いブラシを提案されまし
た。効果はてきめん、やはり専門
の方に聞くのが一番ですね。それ
以来IPMについて相談に乗って
もらっています。

美術館の裏方仕事の中でも特に
地味〜だけど超重要なIPM。次
回は年間の取組みをお伝えします。
(上田優里)



ドア下に取り付けられたバーテック製の防虫ブラシ。写真では
分かりにくいですが、長くて丈夫なブラシが床にピッタリと
あたって虫の侵入を防いでくれます。

【参考文献】三浦定俊「図書館でのIPM(総合的有害生物管理)について」国立国会図書館『びぶろず』66号(平成26年10月)

(*) 1967年の国連食糧農業機関 (FAO) のシンポジウムでは、IPMを「関連する環境と有害生物種の活動をふまえて、あらゆる適切な技術や手段を相互に矛盾しないかたちで使用し、有害生物の密度を経済的損失を引き起こす以下の水準に維持するための有害生物管理システム」と定義。



おとももこどももたのしめるワークショップを
かいさい。みんなであそびにきてね♪



石正美術館キャラクター
ぐーちゃんと
おともだち→



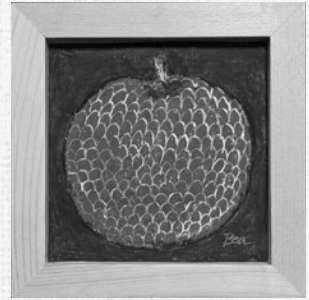
★4/28～5/6は休まず開館！ ※5/7は休館

4/26
日

オイルパステルでりんごを描こう

時間 13時～15時 **定員** 15名(要予約)
参加費 500円 **対象** 小学生～一般
講師 Bea(ベア)さん **場所** 石正美術館 創作室

クレヨンになかま、オイルパステルを使ってカラフルなりんごの作品を描いてみませんか？
浜田市にお住まいの Bea さんに「重ね塗り」や「クラッキング」の技法を教わりながら制作
します。完成したら木の額に入れてお部屋にかざってみよう。



額サイズ:約12×12cm

5/2
土

石州和紙でこいのぼりをつくろう！

時間 13時～15時 **定員** 15名(予約可) ※空きがあれば当日受付可
参加費 500円 **場所** 石正美術館 回廊(屋外) ※荒天時創作室

浜田市三隅町の伝統工芸品「石州和紙」を使って、こいのぼりを手作りしてみませんか？
いろいろなパーツと組み合わせて、世界に一つだけのこいのぼりを作ろう！



5/5
祝

ドーナツ型テープケースをデコろう！

時間 ①13時～14時 **定員** 各回15名(予約可) ※空きがあれば当日受付可
②14時～15時 **場所** 石正美術館 回廊(屋外) ※荒天時創作室
参加費 1,000円 **講師** アリエカロス 琴野和世さん

かわいいドーナツ型のテープケースをスイーツみたいな軽量ねんどや樹脂ねんどでデコろう。
今回はいちご・ミント・ブルーベリーを手作りして、他のパーツと組み合わせて仕上げます。

ケース外径:約7.5cm(テープ付属)
市販のマスキングテープを補充可



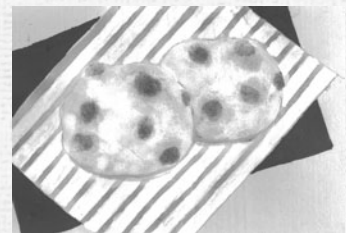
5/23
土

胡粉をつかって塩豆大福を描こう

時間 13時30分～16時 **定員** 15名(要予約)
参加費 1,000円(展覧会解説、塩豆大福、お茶付き) **場所** 石正美術館 創作室
講師 横山由美子(当館主任学芸員)

貝殻(カキやホタテほか)から作られる白色顔料「胡粉」は、古くから絵画や工芸など様々な
場面で使われてきました。胡粉の白は繊細でやわらかな発色が特徴で、日本画においては膠(に
かわ)と練り合わせ、だんご状にしてから溶き下ろすという特別な使い方をします。この胡粉
だんごを作る体験とあわせ、ふっくらやわらかい塩豆大福を日本画で描いてみませんか？

ご予約
開始日 | 4月21日(火) 午前9時～



作品サイズ:約15×10cm

お申込み・お問合せ 浜田市立 石正美術館 TEL 0855-32-4388

受付時間: 午前9時～午後5時
(休館日: 毎週月曜、祝日の場合翌平日)

開館 25 周年記念展 石本正と石正美術館 (仮)

4.11 土 → 4.22 水 入場
無料

9 時～ 17 時 月曜休館

2026 年、石正美術館は開館 25 周年を迎えました。本展では、これまでの美術館の記録や思い出を写真や資料で振り返ります。地元根ざした美術館としての 25 年の歩みをぜひご覧ください。



「石見の春展」

3.20 金・祝 → 4.9 木 入場
無料

9 時～ 17 時 月曜休館

(昨年の展示作品)

河野無尽「生彩」



大谷千枝子「春の足音」

「Kakuhanko」(福はんこ)
「春がやってきました!」



河本天「美濃地の春」

「三隅大平桜」をはじめ、梅林や 5 万本のつつじを楽しめる石見の地・三隅町。本展は、そんな自然豊かな石見地方を彩る春にあわせた展覧会です。

「春」をテーマにした作品を一般の皆様から広く募集し、絵画や写真、立体作品など様々な作品が並びます。春の訪れとともにぜひご覧ください。

Knit Mochi 個展 ～毛糸の世界 knit world～

5.2 土 → 5.10 日 入場
無料

9 時～ 17 時 (最終日 15 時まで) 休館日: 5 月 7 日 (木)



島根県在住の大学生、「ニットもち」さんの編み物作品展です。ふわふわのニットをゆったり眺めて、ほっこりするのはいかがですか。



人形浄瑠璃 益田糸操り人形 ～人形の息吹が聞こえる～

4.25 土 → 4.30 木 入場
無料

9 時～ 17 時 月曜休館

「弁慶・出待ち」

浜田市在住のカメラマン・島津ヒロユキさんが撮影した「益田糸操り人形」の写真展です。

江戸時代、東京浅草で人形芝居を興行していた山本三吉が明治 20 年頃、浄瑠璃が盛んだった益田に移り住み伝えたのが始まりとされている「益田糸操り人形」。島根県の無形民俗文化財に指定されています。



今回の写真展ではグラントワ定期公演でのスナップや鄙びた貴重な人形の頭(かしら)のアップ写真等約 50 点に加え、公演のダイジェスト動画も展示予定です。

石本正 記念展示室	企画展示室	ギャラリー	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
企画展「石本正の視点 VOI・1 朱と白」 <small>あか</small>	現代の日本画展 PART 2 池庄司淳・池田知嘉子・多留裕二・吉川弘	3.20 ^{金祝} ↓ 4.9 ^木 石見の春展 【入場無料】	4.4 ^土 10時～11時 「現代の日本画展 PART2」 出品作家によるギャラリートーク 会場：石正美術館 企画展示室 観覧料
		4.11 ^土 ↓ 4.22 ^水 開館 25 周年記念展 石本正と石正美術館(仮) 【入場無料】	4.4 ^土 4.5 ^日 第 66 回石本正絵画教室 講師：西久松吉雄（当館館長、創画会副理事長） 参加費：7,500 円 定員：30 名 会場：石正美術館 創作室 参加費 要申込み
		4.25 ^土 ↓ 4.30 ^木 人形浄瑠璃 益田糸操り人形 ～人形の息吹が聞こえる～ 【入場無料】	4.26 ^日 13時～15時 オイルパステルで りんごを描こう 講師：Bea（ベア）さん 参加費：500 円 定員：15 名 対象：小学生～一般 会場：石正美術館 創作室 参加費 要申込み
		5.2 ^土 ↓ 5.10 ^日 Knit Mochi 個展 ～毛糸の世界 knit world～ 【入場無料】 最終日は 15 時まで	5.2 ^土 13時～15時 石州和紙で こいのぼりをつくろう！ 参加費：500 円 定員：15 名 会場：石正美術館 回廊 ※荒天時創作室 参加費 申込み可
		5.13 ^水 ↓ 5.24 ^日 魅惑のバティック ジャワ更紗の世界 【入場無料】	5.5 ^{火・祝} ①13時～14時 ②14時～15時 ドーナツ型テーブルケースを デコろう！ 講師：琴野和世さん（アトリエカロス） 参加費：1,000 円 定員：各回 15 名 会場：石正美術館 回廊 ※荒天時創作室 参加費 申込み可
		3.20 ^{金祝} ↓ 5.24 ^日	3.20 ^{金祝} ↓ 5.24 ^日
5.25 ^月 → 6.5 ^金 展示替休館			CLOSED

利用ごあんない

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日

(月曜日が祝日の場合開館・翌平日休館)

展示替え期間

(令和8年5月25日(月)~6月5日(金))

観覧料

一般 600円 (団体500円)

高校・大学生 300円 (240円)

小・中学生 200円 (160円)

※20名以上は団体料金。

※身体障がい者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は半額。介助者は無料です。

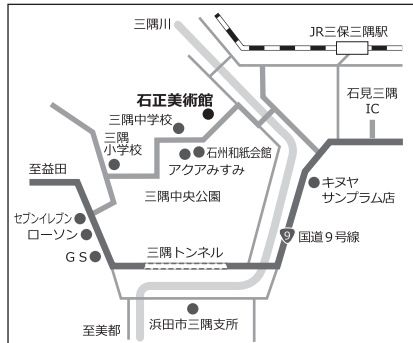
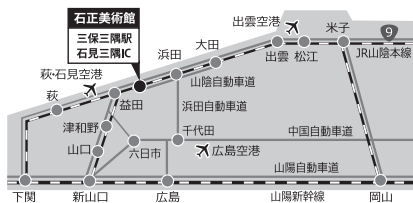
※「しまね家庭の日」毎月第3日曜日は「しまね家庭の日」(家族連れの高中生・中学生・小学生は無料)。

石正美術館へのアクセス

- 最寄駅 三保三隅駅から車で5分
- JR山陰本線 浜田駅から三保三隅駅まで列車で20分
- 広島駅から浜田駅まで高速バスで2時間
- 浜田自動車道 浜田ICから車で20分
- 山陰道 石見三隅ICから車で3分
- 萩・石見空港から車で30分

山陰道 石見三隅IC ~ 遠田IC 3/28(土) 開通

萩・石見空港や山口方面からのアクセスが約10分早くなりました!



石正美術館 ミュージアムニュース アフロディア

No.167

Spring 2026

令和8(2026)年3月20日発行

編集・発行 浜田市立石正美術館

〒699-3225 鳥根県浜田市三隅町古市場 589

TEL 0855-32-4388 FAX 0855-32-4389

Eメール sekisho@mx.miracle.ne.jp

http://www.sekisho-art-museum.jp/

石正美術館 検索



石正アフロディア サポーター通信

「私たちの石正美術館」を楽しむ サポーターズ・FUN!

昨年新たに立ち上がった「サポーターズ・FUN!」。音楽や朗読、創作など、サポーターの皆さんがそれぞれの「得意」を活かして美術館を盛り上げようという思いからスタートしました。

記念すべき第1回目は、朗読&箏で味わう怪談「耳無し芳一」(7月13日)。会場には平家物語に着想した石正正の作品を特別に展示しました。



この日のために創作した花音さんの箏の音色にのせて、SONOKOさんの凛とした声が響きます。物語終盤、迫真の朗読に



会場中が引き込まれるなか、芳一の耳が取られる瞬間が訪れます。「ビィンッ」と弦が大きく弾かれた時には背筋が凍りつき圧倒されました。第2回目は朗読&箏「かぐや姫」とREEKOさんのオカリナ演奏(11月15日)。この時は月を描いた作品をバックにパフォーマンスをしてもらいました。古典と現代、二つの異なるかぐや姫の物語を披露いただき、演奏後はイメージに合わせた音の作り方など公演の裏話に花が咲きました。

それぞれ準備段階から本番に至るまで楽しんでくださったのが伝わり、私達職員も嬉しかったです。企画してくださったSONOKOさん、花音さん、REEKOさん、本当にありがとうございました。これからも皆さんの「得意」を活かした活動のアイディアをお待ちしています。どうぞお気軽にお声かけください!



「できること」を「できるときに」でけこうです。



バックヤード清掃



封入作業

- 広報 美化活動 研修旅行
- 創作活動 展示替え など

活動を「楽しんで」いただける方、お待ちしております。

サポーター募集

しだれ桜も ぼくたちが まだまだ成長中! これからも よろしくね!

じーちゃんのつぶやま



石正美術館は ことしで 25周年をむかえたよ!